

4. 手掌紅斑 palmar erythema

さまざまな原因によって生じる手掌(場合によっては足底も) のびまん性紅斑である. 血中エストロゲン上昇(とくに妊娠や 肝機能障害) に関連して生じることが多い、 膠原病 (SLE、皮 膚筋炎、関節リウマチなど)や慢性肺疾患などでもみられる. まれに健常人においても生じる

5. 新生児中毒性紅斑 toxic erythema of the newborn, erythema toxicum neonatorum

正常な新生児の約半数に生じる. 紅斑および直径1~2mm の小膿疱が散在ないし多発する(図9.5).病理組織学的には 好酸球の著明な表皮内、真皮上層への浸潤をみる、数日~数週 間以内に自然消退する.

- **結節性紅斑→** 18 章 p.354 参照.
- 硬結性紅斑→ 18 章 p.355 参照.



図 9.5 新生児中毒性紅斑(toxic erythema of the newborn)

B. 環状紅斑 annular erythema

小紅斑として初発し、遠心性に拡大する一方で中心部が消退 し、その結果、環状の紅斑を形成する. このような皮疹の出現 が主体の疾患の総称である. 環状を呈する他の疾患(乾癬. 蕁 麻疹、体部白癬など)の場合は環状紅斑とはいわない、感染症 や内臓悪性腫瘍、膠原病、薬剤などを背景として発症すること がある. 原疾患や臨床像の違いにより. 表 9.5 のように分類さ れている. 膠原病を背景とする環状紅斑は12章を参照.

1. 遠心性環状紅斑

erythema annulare centrifugum; EAC

同義語: Darier 遠心性環状紅斑

症状

壮年の男女に好発する. 体幹部や四肢の中枢側に. 直径 2 cm 大くらいの浸潤を伴う浮腫性紅斑が生じ、次第に周囲へ 遠心性に拡大する. 中心部は退色し, 辺縁は堤防状に隆起し, 輪状ないし不規則な環状紅斑となる(図9.6). 辺縁にわずか な鱗屑を付着することもある、皮疹は多発、融合して連圏状あ るいは地図状となることもある. 拡大は2週間前後続き、数週

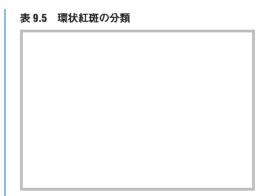


図 9.6① 遠心性環状紅斑 (erythema annulare

centrifugum)



図 9.6② 遠心性環状紅斑 (erythema annulare centrifugum)



図 9.7 匍行性迂回状紅斑 (erythema gyratum repens)

デルマドローム MEMO (dermadrome, skin manifestations of internal disorders)

~数か月で軽度の色素沈着を残して治癒する。瘙痒などの自覚症状は通常なく、年余にわたって再発を繰り返すことも珍しくない。

病因

原因不明. 一部の症例では慢性感染病巣(扁桃炎,齲歯など) や内臓悪性腫瘍が関与することもある

病理所見

真皮全層の血管周囲に、coat-sleeve 状と表現される密なリンパ球細胞浸潤を認める。

治療

ステロイド外用や抗ヒスタミン薬内服を行う. 原因疾患が推 定できるときは、その治療を行う.

2. 葡行性迂回状紅斑 erythema gyratum repens

体幹および四肢に生じる規則正しい縞模様~木目状の環状紅斑で、急速に広がり痒みが強い(図 9.7).80%以上の症例で肺癌などの内臓悪性腫瘍が発見されるが、他の疾患(SLEや乾癬など)、あるいは基礎疾患なく生じることもある。内臓悪性腫瘍の治療により速やかに消退する。

3. 壞死性遊走性紅斑 necrolytic migratory erythema

グルカゴノーマ(グルカゴン産生膵内分泌腫瘍)に伴う皮膚症状. 辺縁に水疱, びらん, 痂皮や膿疱を伴い, 中央に色素沈着を残して環状または地図状に拡大する. 数週間の経過で増悪と軽快を繰り返す. 殿部, 下肢, 顔面に好発し, 亜鉛欠乏症候群(17章 p.323 参照)に類似することがある. 舌炎や口角炎を伴うことも多く, 皮疹と同様の機序で生じるとされる.

4. リウマチ性環状紅斑 erythema annulare rheumaticum

同義語:erythema marginatum (rheumatica)

症状・病因

レンサ球菌感染症であるリウマチ熱 (rheumatic fever) の 初期に生じる環状紅斑で、約 $5\sim30\%$ の症例で出現する. 主